

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

早期水稲

1. 畦畔の草刈りを徹底しましょう。
2. 生育・水管理
※幼穂の伸長期は間断灌水とし、穂ばらみ期から出穂開花期は湛水状態を保ちましょう。
3. いもち病・カメムシの防除
※いもち病を確認したら速やかに防除しましょう。

※生育後半が暑い年は、カメムシが多発します。

水田内や畦畔の雑草は出穂前に刈取り、穂揃い期とその10日前後の2回防除を徹底しましょう。

※草刈りは出穂10〜15日前までに行いましょう。

【問い合わせ先】

営農指導課

TEL 27-4504

普及センター

TEL 43-2311

露地胡瓜

一度に4本以上の枝を摘むような摘芯は避けてください。

3枚以上展開した生長点を3〜4本残すようにしましょう。

光が当たるように誘引・枝の整理を行うようにしましょう。

今後は高温により草勢が低下するため、収穫ピーク前の摘芯は控えるようお願いいたします。

2. 摘葉について

老化葉・病葉だけではなく、採光や通風を妨げている葉は、摘葉を行うようお願いいたします。

又、摘葉と同時に不良果の摘果を行い草勢の回復を図りましょう。

3. 灌水について

晴天であれば毎日灌水を行ってください。液肥と合わせ灌水を行ってください。

又、通路や畦のかたが乾いているようであれば、排水を考え水分過多にならないよう通路へ灌水を行いましゅう。

4. 防除について

病害（べと病・炭そ病）、害虫（ウリノメイガ・アブラムシ等）の防除を定期的にいきましょう。

特に、きゅうり黄化えそ病（MYSV）の媒介であるミナミキイロアザミ

ウマの防除を徹底し、発病株を発見したら、拡大防止のため抜根するようにしましょう。

今年は、促成作でアザミウマの発生が多く見られました。定期的な防除をお願いいたします。

ニラ

定植が終わった生産者は根を張ることを意識し、発根剤等利用しながら栽培管理を行ってください。

今期も夏場は高温になることが予想されます。遮光資材等利用しながら高温対策に努めましょう。

また、病害虫も活発に動いています。こまめな防除を行うようよろしくお願い申し上げます。

トマト類

栽培の終わりが、次の作の始まりになります。イチゴと同様に連作障害対策として土壌消毒の徹底、土壌診断に基づく施肥を必ず実施、土壌の改善に努めてください。

定植は適期定植が基本です。定植の1週間前には圃場準備が完了できるように計画的な作業を行ってください。

イチゴ

栽培の終わりが、次の作の始まりになります。作物の最も住みやすい環境

を作ることが栽培の可否を左右します。連作障害対策として土壌消毒の徹底と土壌診断に基づく施肥を必ず実施、土壌の改善に努めてください。

育苗では、薬剤散布で病害虫予防に努め、有用微生物菌を施用し対策してください。

苗床の環境整備を行い、良い環境で苗作りをするように努めましょう。

ぶどう

収穫期に入ってからからの降雨は裂果、病害虫の発生を助長するので、圃場の排水対策に十分注意してください。梅雨明け後については、高温障害を避ける為にビニールを除去してください。べと病・うどんこ病の防除を徹底してください。

きんかん

○6月下旬に1番花の満開を揃え、約1ヶ月後の7月下旬の効果期から高温に注意が必要です。7月下旬までに遮光・遮熱資材の被覆と散水による高温対策を行ってください。

○防除については、1番花以降も開花する為、灰色かび病及びアザミウマ類の防除を徹底してください。